

漢法苞徳塾資料	No. 271
区分	資料・脈診
タイトル	脈論・検討用・重要資料
著者	八木素萌
作成日	1994.12

◎『難経』 1 難に記述されている経脈別の診脈部位に関する諸説

	呂 広	楊 玄操	滑寿
足太陽	委中	委中	委中
足少陽	耳前	下関・懸鐘	下関・聴会
足陽明	趺上	衝陽・人迎・大迎	衝陽・人迎・大迎・氣衝
手太陽	目外眥	瞳子	天窓
手少陽	客主人	客主人・聴会	禾髎
手陽明	口辺・陽谿	地倉	合谷・陽谿
足厥陰	人迎	回骨	太衝・五里・陰廉
足少陰	内踝下	内踝上5寸間（太谿）	太谿・陰谷
足太陰	髀上	箕門	箕門・衝門
手厥陰	勞宮	勞宮	勞宮
手少陰	腋下	極泉・靈道・少海	極泉
手太陰	太淵	尺沢・俠白・天府	中府・雲門・俠白・天府

◎『素問』 三部九候論第 20 の診脈部位

上部	天	両額の動脈	候頭角の氣
	人	耳前の動脈	候耳目の氣
	地	両頬の動脈	候口齒の氣
中部	天	手太陰	候肺
	人	手少陰	候心
	地	手陽明	候胸中の氣
下部	天	足厥陰	候肝
	人	足太陰	候脾胃の氣
	地	足少陰	候腎

## ◎『靈枢』人迎・氣口＝脈診 「終始第9」記述

人迎>脈口	1 盛	病在足少陽	瀉足少陽而補足厥陰 2 瀉 1 補 日 1 取之 必切而驗之 疏取之上 氣和乃止
	1 盛にして躁	病在手少陽	
	2 盛	病在足太陽	瀉足太陽而補足少陰 2 瀉 1 補 2 日 1 取之 必切而驗之 疏取之上 氣和乃止
	2 盛にして躁	病在手太陽	
	3 盛	病在足陽明	瀉足陽明而補足太陰 2 瀉 1 補 日 2 取之 必切而驗之 疏取之上 氣和乃止
	3 盛にして躁	病在手陽明	
人迎<脈口	1 盛	病在足厥陰	瀉足厥陰而補足少陽 2 補 1 瀉 日 1 取之 必切而驗之 疏取之上 氣和乃止
	1 盛にして躁	病在手心主	
	2 盛	病在足少陰	瀉足少陰而補足太陽 2 補 1 瀉 2 日 1 取之 必切而驗之 疏取之上 氣和乃止
	2 盛にして躁	病在手少陰	
	3 盛	病在足太陰	瀉足太陰而補足陽明 2 補 1 瀉 日 2 取之 必切而驗之 疏取之上 氣和乃止
	3 盛にして躁	病在手太陰	

人迎四盛、且大且数、名曰溢陽、溢陽為外格

脈口四盛、且大且数者、名曰溢陰、溢陰為内関、内関不通死不治

人迎与太陰脈口俱盛四倍以上、命曰関格、関格者与之短期

不病者、脈口人迎応四時也、上下相応而俱往来也、六経之脈不結動也、本末之寒

温之相守司也、形肉血氣必相称也、是謂平人

## 『靈枢』経脈第 10 の記述

手太陰肺	実	寸口>人迎	3倍	虚	寸口<人迎	反小
手陽明大腸	実	寸口<人迎	3倍	虚	寸口>人迎	反小
足陽明胃	実	寸口<人迎	3倍	虚	寸口<人迎	反小
足太陰脾	実	寸口>人迎	3倍	虚	寸口<人迎	反小
手少陰心	実	寸口>人迎	再倍	虚	寸口<人迎	反小
手太陽小腸	実	寸口<人迎	再倍	虚	寸口>人迎	反小
足太陽膀胱	実	寸口<人迎	再倍	虚	寸口>人迎	反小
足少陰腎	実	寸口>人迎	再倍	虚	寸口<人迎	反小
手厥陰心包	実	寸口>人迎	1倍	虚	寸口<人迎	反小
手少陽三焦	実	寸口<人迎	1倍	虚	寸口>人迎	反小
足少陽胆	実	寸口<人迎	1倍	虚	寸口>人迎	反小
足厥陰肝	実	寸口>人迎	1倍	虚	寸口<人迎	反小

## ◎『難経』脈法

記述されている脈の種類について

病脈について

- A. 記述されている「難」は…3.4.6.9.10.11.13.14.15.16.17.18.19.20.21.23.24.34.37.40.48.49.52.58.  
 B.  
 C.  
 D.  
 E.  
 F.  
 G.  
 H.  
 I.  
 J.  
 K.  
 L. 診断学における重要な示唆として…  
 15 難・13 難・16 難・37 難・81 難の記述などに関して

## ◎六経脈状について

冬至より	60日間	少陽
	61～120日間	陽明
	121～180日間	太陽
夏至より	60日間	太陰
	61～120日間	少陰
	121～180日間	厥陰

少陽脈状…

陽明脈状…

太陽脈状…

太陰脈状…

少陰脈状…

厥陰脈状…

## ◎五臓脈状について

A. …記述されている難は、

六部配当に関する諸説について

四時の脈状と病脈そして死脈

脈の数遅と病脈・死脈・絶脈

## ◎『傷寒』脈法

## ◎『奇経』脈法

1. 督脈
2. 任脈
3. 陽維脈
4. 陰維脈
5. 陽蹻脈
6. 陰蹻脈
7. 衝脈
8. 帶脈

◎診脈部位への臟腑経脈の配当に関する諸説について

◎滑脈・濇脈の論について